

# 新たなまちづくりへの挑戦

—ローカルイノベーターたちが地域を救う！—



和歌山県田辺市企画部たなべ営業室  
鍋屋安則

# 本日、お伝えしたいこと

## 1. 大学と市との連携による取り組み紹介

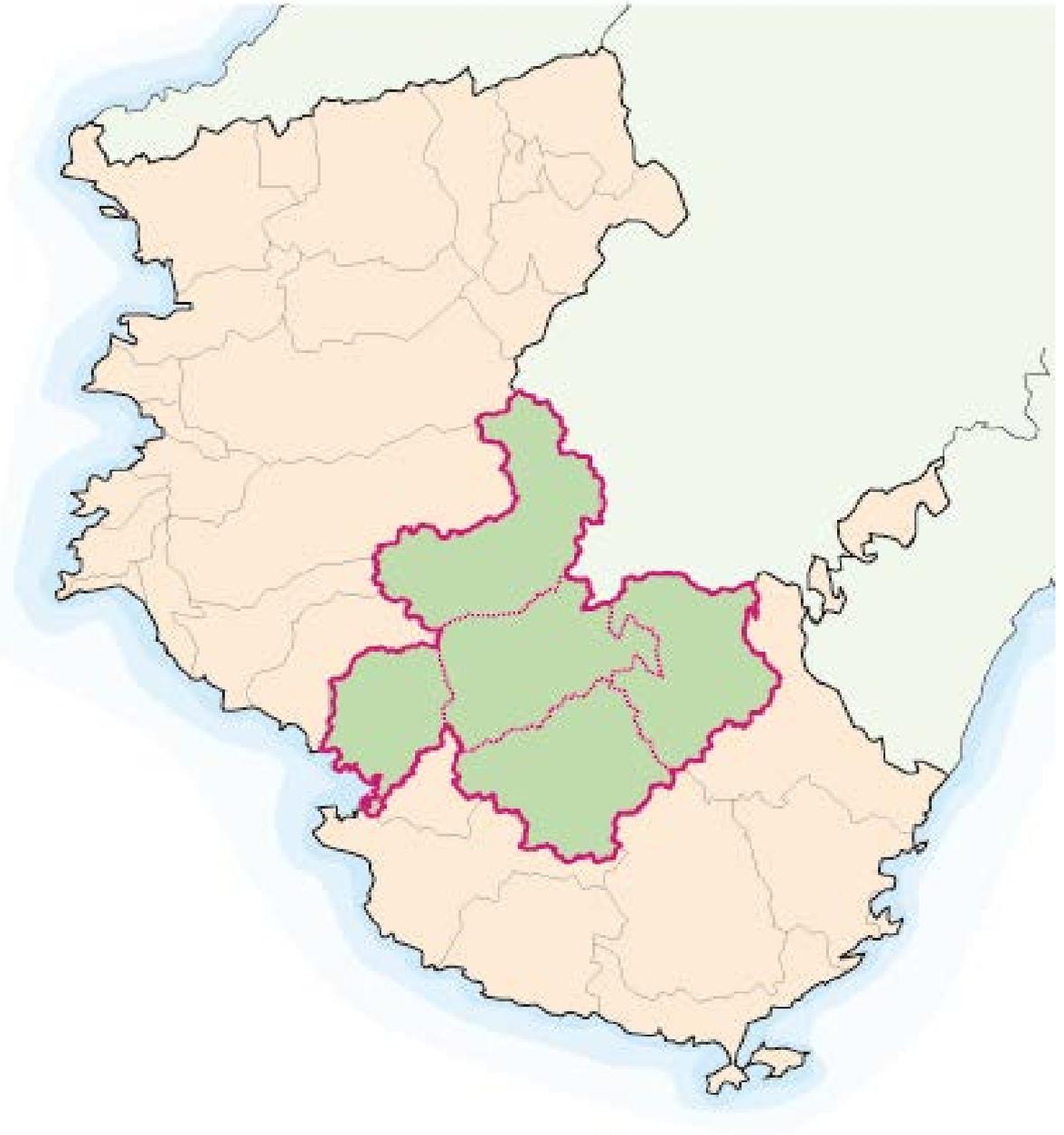
- ①地域発イノベーションの創出  
(第二創業支援・CSV⇒持続可能な地域づくりへ)
- ②地域を担う人材を発掘
- ③修了生から生まれたローカルイノベーション

## 2. まとめ（他地域に展開する際の課題）

## 3. 持続可能な取組に向けて（今後の施策の方向性）

# 和歌山県田辺市

- 和歌山県域の1/4
- 人口は約75,000人



<田辺市の地域資源①>

# 世界遺産「熊野古道」



## <田辺市の地域資源②>

# 温暖な気候を生かした農産品



## <梅>

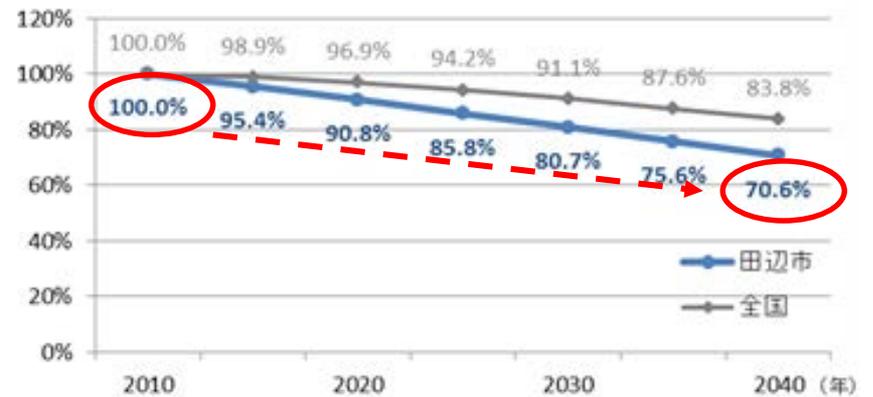
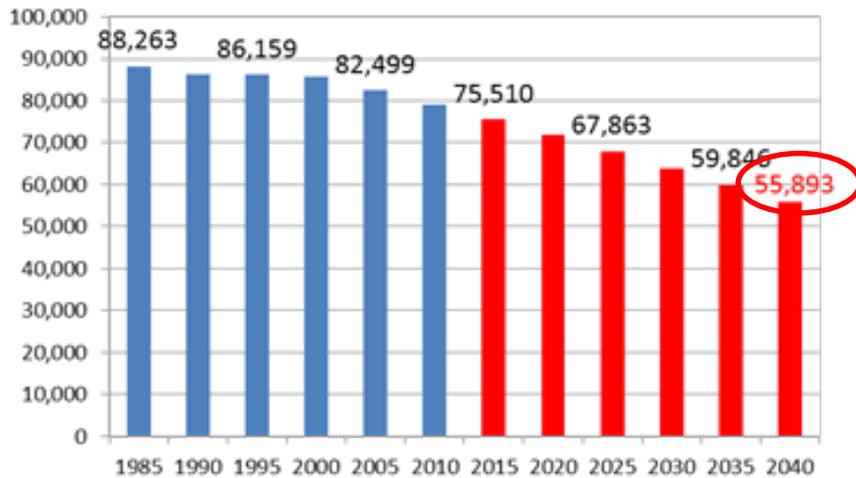
- ・南高梅に代表される**紀州梅**の大産地  
(全国の**約6割**が和歌山県産)
- ・江戸時代から続く伝統を継承
- ・「みなべ・田辺の梅システム」が  
**世界農業遺産**に登録



## <柑橘>

- ・年間を通じて**約80種類もの柑橘**が収穫できる
- ・ほどよい甘みと酸味が特徴

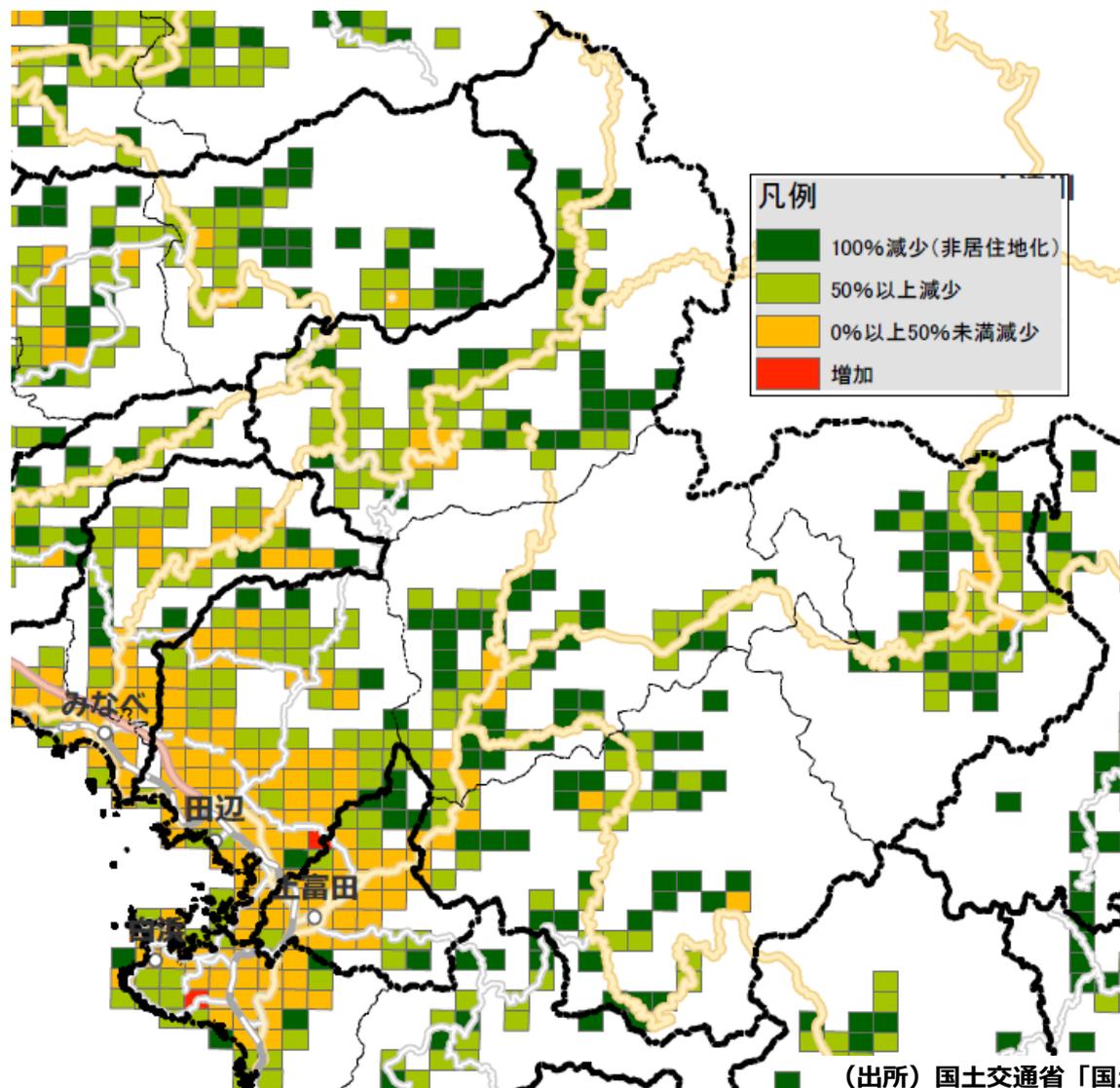
# 全国平均よりも早いスピードで進む人口減少



人口減少が進むと田辺市はどうか？

(出所) 総務省「平成22年国勢調査」  
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成25年3月推計)

# メッシュ別の将来人口（2050年／2010年）



# 内需に依存した経済構造、人口減少の影響が直撃

産業の特性		地域住民の減少と連動して、規模が縮小していく産業							交流人口で稼げる産業
(単位:百万円)		建設業	電気・ガス・水道業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	運輸業	情報通信業	サービス業
田辺市	実額	19,767	6,255	36,439	11,526	25,768	5,701	7,415	53,952
	構成比	8.7%	2.8%	16.0%	5.1%	11.3%	2.5%	3.3%	23.7%
和歌山県	実額	199,641	72,296	348,972	143,639	426,495	134,962	100,350	599,919
	構成比	5.7%	2.1%	9.9%	4.1%	12.2%	3.9%	2.9%	17.2%
(参考) 和歌山市	実額	60,305	34,577	161,723	78,805	197,659	56,809	45,540	255,025
	構成比	3.6%	2.1%	9.8%	4.8%	11.9%	3.4%	2.7%	15.4%

産業の特性		地域住民が減少しても、地域外への販路拡大によって稼げる産業							
(単位:百万円)		農業	林業	水産業	鉱業	製造業	政府サービス生産者	対家計民間非営利サービス生産者	小計
田辺市	実額	5,739	631	1,064	101	16,941	30,447	5,572	227,318
	構成比	2.5%	0.3%	0.5%	0.0%	7.5%	13.4%	2.5%	100.0%
和歌山県	実額	66,750	2,270	7,222	1,128	986,259	367,174	79,972	3,484,450
	構成比	1.9%	0.1%	0.2%	0.0%	28.0%	10.5%	2.3%	100.0%
(参考) 和歌山市	実額	5,515	57	237	0	562,519	165,980	33,571	1,658,323
	構成比	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.9%	10.0%	2.0%	100.0%

(出所) 和歌山県「平成23年度市町村民経済計算」より作成

## 専門部署の設置（縦割れ行政、しがらみからの脱却）



世界遺産登録10周年、合併10周年など  
大きな節目をチャンスにしたい！



平成26年4月に**たなべ営業室**を創設し、  
「価値創造プロジェクト」始動へ

・ <取組①> **首都圏を中心としたプロモーション**

・ <取組②> **戦略ビジョン・戦略プランの策定**

# 実践的なノウハウを持つ富山大学との連携



地域経済活性化の現場で活躍する  
富山大学地域連携推進機構 金岡省吾教授 に協力依頼

H20~21 富山大学にて試行実験／プログラム開発

H23~ 魚津市へノウハウ移転 (H21~22職員研修⇒H23協定)

里山・山間部 <地域資源活用型>

H26~ 高岡市へノウハウ移転 (H25協議スタート⇒H25協定)  
<H29~ 高岡市⇒呉西圏域連携中核都市圏 6市>

都市部 <地域課題解決型>

H26~27 田辺市へノウハウ移転 (戦略ビジョン・プラン策定)

▶ 県外自治体であっても大学や他地域への波及が見込める

魚津市+高岡市ハイブリッド型

市職員の人材育成も (コンサルタントへの丸投げではなく、自分で考えて行動する！)

- ・ 社会情勢
- ・ 国の動向 (国土形成計画、地方創生…)
- ・ 全国の事例
- ・ 魚津市、高岡市でのノウハウ

## 国土形成計画・地方創生を現場で実践！

# 地域が生き残るためには、 地域で「稼ぐ」プレイヤーが必要

- 外部人材に頼るのではなく、  
地域企業の**第二創業支援**（30～40歳代、意欲のある二代目…）
- 本業を生かし、**地域課題をビジネスで解決**する  
（CSV、ソーシャルビジネス…）

持続可能な地域づくりへ

# 魚津三太郎塾

- 1～6期**52名**もの修了生を輩出
- 提案事業実行率 ⇒ **61.5%**

地域課題と企業課題を解決する地域プロジェクトの創造

## いざ、未来系魚津へ!

魚津三太郎塾の概要 Outline

### ★主テーマ 「魚津の水循環」

#### ① 講義(1.5h)+ディスカッション(1.5h) (H29.7～12)

- 高低差4000環境論 (2コマ)  
水・物質循環, 魚津の魚と水循環
- 魚津水循環コミュニティビジネス起業化論 (2コマ)  
各地方の取り組み, 地域づくりと企業行動
- コミュニティビジネス育成起業化論 (2コマ)  
新たな公, 自然共生ビジネス
- 地域再生システム (3コマ)  
でんき宇奈月, 地域活性化, 環境配慮志向
- ケーススタディ (1コマ)

#### ② 演習, ミニゼミ (H30.1～2)

- ミニゼミは希望者のみ

#### ③ 発表 (H30.3)

- ポスターによる発表 (全員)

### ★塾生の視点

- 何をすれば自分の企業が生き残れるか?  
社内起業(≠新分野進出)できるか?
- 自社の強み, 自身の特技
- 自社のある地域のこと(立地・自然環境etc.)を知る
- 将来の魚津地域をイメージして, 皆さんの企業はどのレベルを目指しますか?



# たかおか共創ビジネス研究所 ⇒とやま呉西圏域共創ビジネス研究所へ

- 1～3期**27名**もの修了生を輩出
- 提案事業実行率 ⇒ **70.3%**

とやま呉西圏域共創ビジネス研究所

とやま呉西圏域共創ビジネス研究所 2017

高岡市 射水市 氷見市 砺波市 小矢部市 南砺市



ホーム 共創ビジネス研究所の背景 概要 白事業スケジュール 入研究生紹介 スタッフ紹介 事業レポート



～呉西地域をステージへ～ 繋ぐのはあなたのアイデアと行動力

### NEWS

- 2017/09/29  
6日目講義「圏域の地域課題とビジネスチャンス②」を開催しました
- 2017/09/15  
5日目講義「圏域の地域課題とビジネスチャンス①」を開催しました
- 2017/08/25  
4日目講義「地域づくり最前線②」を開催しました
- 2017/08/18  
3日目講義「地域づくり最前線①」を開催しました
- 2017/08/04  
2日目講義「地域再生論」を開催しました
- 2017/07/24  
開講式を開催しました

### とやま呉西圏域共創ビジネス研究所



とやま呉西圏域(高岡市 射水市 氷見市 砺波市 小矢部市 南砺市)と富山大学との共同主催により, 地域金融機関や関係機関等と連携して, 地域で頑張る経営者を支援する「とやま呉西圏域共創ビジネス研究所」を開講します。

地域課題から内需を生み出し「企業/金融/行政/大学」が早い段階から課題を共有し一緒に考え, 地域と社会が関わり, 地域課題をビジネスで解決していくことを目指します。<ビジネス研究所の背景>

県を越えて、魚津⇒高岡⇒田辺へ ノウハウ移転

# 田辺市と富山大学地域連携推進機構が 「人材育成の連携に関する覚書」を締結



田辺市より共同研究員として職員1名を派遣し、具体化へ

# 田辺市と日本政策金融公庫との協定締結



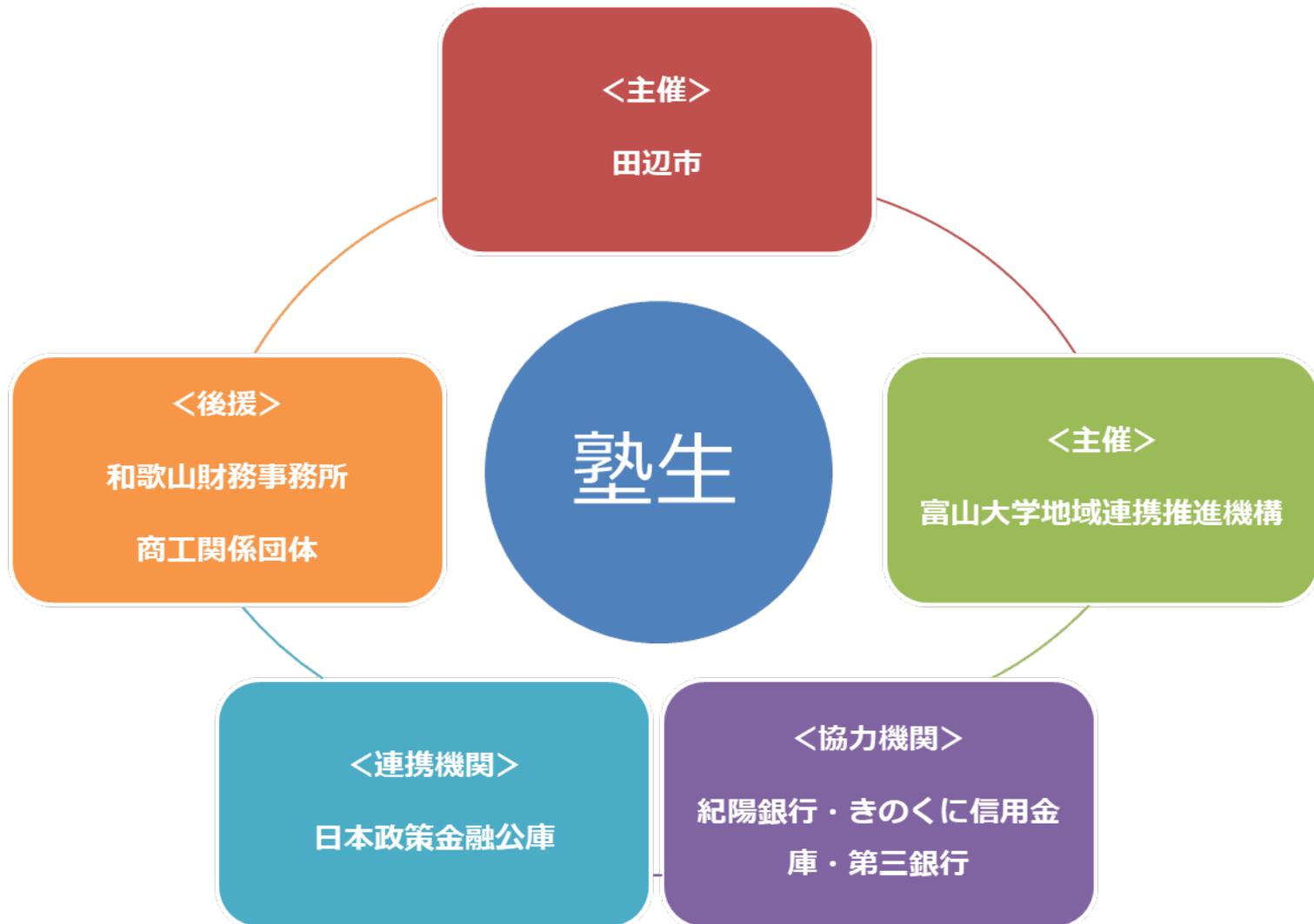
- ・ たなべ未来創造塾の運営に対する全面的な支援（カリキュラム作成、講師選定、**塾生推薦**…）
- ・ 積極的な**融資支援**（無担保・無保証での融資）

# 近畿財務局和歌山財務事務所が支援



- ・ 数回にわたる塾への出席、意見交換
- ・ 優良事例として発信
- ・ **地元金融機関への指導**、意見交換会の実施

# 「産学官金」が一体となった運営体制の構築



# たなべ未来創造塾

▼第3期修了式



- 30歳代を中心とした地域を担う**異業種**を選抜 (MAX12名)  
(地方では自ら手を挙げない、テーマを絞りすぎると集まらない)
- それぞれが**連携**することを念頭に置いた人選

1期生



家具屋 介護福祉士 農業



特産品販売 デザイナー 工務店



酒屋卸 建材屋 新聞記者



イタリアン 旅館業 梅加工業

2期生



工務店 養鶏 CGパース+木工



育林業 表具店 自動車販売



土地家屋調査士 薬局 イタリアン



一級建築士 塾講師 農業

3期生



居酒屋 介護福祉士 うなぎ屋



携帯ショップ 農業 ホテル



コーヒー卸 フレンチ 看板店



鮮魚店 リトミック教室

# 田辺市の実情にあった実践者や専門家を招聘

## 市外講師



### 「地域活性化論」

～小さな拠点、新たな公、CSV～

富山大学地域連携戦略室  
金岡 省吾 教授



### 「データから見る地方創生」

～地域課題と地域活性化とは～

(株)日本能率協会総合研究所  
塩見 一三男 氏



### 事例「津屋崎ランチ」

～空き家再生・移住支援・起業塾～

津屋崎ランチ  
山口 覚 氏



### 「超高齢社会ビジネス」

～生活支援市場を展望する～

三菱UFJリサーチ&コンサルティング  
岩名 礼介 氏

## 市内講師



### 「世界遺産の活用」

～世界遺産の価値をビジネスに～

田辺市熊野ツーリズムビューロー  
多田 稔子 氏



### 事例「熊野米プロジェクト」

～地域課題・地域資源をビジネスに～

(株)たがみ  
田上 雅人 氏



# カリキュラム構成

## (1)講義+ディスカッション (3時間)

- ・ 新たな地域活性化論とは (CSV、ソーシャルビジネス、クラスター…)
- ・ 田辺市の地域課題とは (地方創生…)
- ・ ケーススタディ

全14回

## (2)演習〈4コマ〉 (ビジネスプランの構築)

- ・ 従来の講演会形式ではなく、ディスカッションを通じて**塾生自らが考える**
- ・ **田辺のことを知る (地域課題・地域資源は何か)**
- ・ 実践者どのようにビジネスを創出したのか  
**いきさつ・考え方を知る**

# 修了式

金融機関、講師、高校生、地元企業、実践者…約90名が出席



田辺市長



富大副学長



商工会議所・商工会

紀陽銀行  
支店長

日本政策金融公庫  
創業センター所長

日本政策金融公庫  
支店長



副市長



事務局補佐  
デザイナー



専門家



講師・DMO会長



講師・米屋



魚津市



講師



高校教諭



高岡市



三太郎塾



神島高校



高校生の視点からのビジネスプラン発表



## ■ 塾生による最終プレゼンテーション



## ■ ビジネスプランのポイント

- ・ **地域課題と企業課題**を同時に解決しているか
- ・ **自社や地域の強み**を生かしているか

⇒他にはマネのできない、地域に根差したビジネスに

(株)中村工務店 中村 文雄 (1期生)

(株)横田 横田 圭亮 (1期生)

## 交流人口と定住人口、地域住民をエンゲージメント

— the C U E (ゲストハウス+シェアハウス+カフェバー) —



岡本農園 岡本 和宜（1期生）

# 自分たちの畑は自分たちで守る。若手農家で「チームHINATA」結成

－「獲る⇒解体⇒食べる」まで取り組むことで地域課題が地域資源へ－



CONSERVA 金丸 知弘 (1期生)

# 東京から龍神村へ移住。地域のサードプレイスへ

— Café、瓶詰食品工房、パン屋を開業 —



焼きたてぱんD'oh 浅賀由貴乃（2期生）

# 田辺を好きになるパン屋「焼きたてぱんD'oh！」を開業

—同期生とコラボした「地域コラボぱん」など—



# 人がつながった新名物「ジビエバーガー」

## theCUE



## CONSERVA



## チームHINATA



ColoGraphical 竹林 陽子 (1期生)  
(有)榎本家具店 榎本 将明 (1期生)  
(株)中川 中川 雅也 (2期生)

# 虫食い材 (あかね材) に光を！「BokuMoku」プロジェクト

— 地域内で入口～出口まで木材に関わる事業所が集結 —



# 実行率 = 70%超 (17/24 1~2期)

第1期



## 人とのおわりでできた日本酒「交」

堀 得和((株)堀忠商店)

世界文化遺産「熊野古道」を訪れる外国人観光客は年々増加しているものの、これまで田辺市には、地域の食を味わいたいというお客さんに提供できる地酒がありませんでした。

こうしたことから、堀得和さんは、酒米ではなく、地元産の食用うるち米である「熊野米」を活用した日本酒を作ろうと、県内の酒蔵に協力を依頼し、杜氏と何度も打ち合わせをしながら酒を仕込み、地元のリゾートメンバーに協力を得ながら、ワークショップなどを通じて人が交わることで今までにない日本酒が生まれました。堀さんのこれからは人も人をつないでいきたいという思いから「交」と名づけられました。



第2期



## くるまのことは何でも相談に乗ります くるまを置かないくるま屋

登坂知広(アップライフ(株))

中心市街地では、空き家や空き店舗が増加するとともに、高齢化などの地域課題を抱えています。

登坂知広さんは、こうした課題解決に向け、商店街の空き店舗を活用し、車のことなら何でも相談に乗りますという気軽に立ち寄れる自動車サポート事業を立ち上げました。

空洞化が進む中心市街地の面白い劇出に寄与するとともに、車の相談事を通じて地域のお年寄りや元気なうちから関わりながら、将来的には外出支援などのサービスを始めることにより、安心して暮らせる生活サポートまでを一体的に取り組んでいきたいとしています。



第2期



## お仕事創造空間「シリコンBAR」

石山登啓((株)高垣工務店)

全国的に人口減少や少子高齢化などの様々な地域課題を抱えている中、田辺市では全国平均を上回るスピードで人口減少が進んでいます。

特に、高校を卒業し大学進学や就職などで市外県外に転出する若者の社会減少が著しく、その要因の一つに「自分が働きたい仕事がない」ことが挙げられます。

そのため、石山登啓さんは、セミナーやワークショップなどを通じて、新しいことにチャレンジしたい人たちが集まる空間、交流する拠点を創出することで、自分たちの仕事は自分たちで作ろうと「シリコンBAR(知理温湯)」を立ち上げました。



第2期



## 空き家管理サービス「たなばん」

田中弘志(土地家屋調査士田中事務所)

田辺市の空き家率は18.5%、全国平均の13.9%を大きく上回っています。さらに、その空き家のうち52.2%が駅から2km以内の市街地に集中するなど、大きな地域課題となっています。(平成25年住宅・土地統計調査より)

しかし、老朽化された空き家がそのまま放置されていたり、「荷物を置いている」「知らない人には貸したくない」などの理由から活用される空き家が非常に少ないというのが現状です。

そのため、空き家管理を受託することで、所有者との信頼関係を構築し、その後の活用につなげようと、2期生の田中弘志さんが中心となり、塗装業者、司法書士とともに空き家管理サービス「LLPたなばん」を創成しました。



第1期



## 竹藪から地域を救いたい 「熊野の橋渡し」

赤田正則(AKARI~熊野コネクショッパー)

放置された竹が、家や畑への日光を遮り、農作物の育ちも悪くするなど、森林環境や生活環境に影響を及ぼしています。

一方、田辺市は、世界文化遺産「熊野古道」や世界農業遺産といった地域資源を有し、外国人観光客が大幅に増加するなど、その魅力が世界に広がっています。

赤田正則さんは、竹を伐採し被害を低減しつつ、世界中から田辺市を訪れる観光客に「箸」として使ってもらうことで環境への負荷を低減しながら、持続可能な世界遺産の保全へと立役ることができないかと活動を続けています。



第2期



## 子どもたちが憧れる農業を目指して

野久保太一郎(千秋園)

農産物の価格低下により農業所得が低下し、その結果、農業の後継者が不足しています。

こうした課題を解決するため、魅力ある農家を増やし、次世代に農業を引き継いでいくことと、年間約30種類もの作物が収穫できるという自園の油みを生かして、地域の子どもたちと一緒に「子どもマルシェ」を開催したり、地域の農産品加工場「きでら」や同期生で「焼きだてぼんどおし」を開業した渡賀由貴乃さんと連携し、加工品開発や「地域コラボぼん」への食材提供など、子どもたちが憧れる農業を目指して活動しています。



第2期



## 食の安全と健康な鶏を追い求めて

石崎源太郎(とりんファーム)

日本の畜産における飼料の9割以上が外国産を使用しており、安心安全な食を提供してほしいという消費者ニーズに対応できていない現状があります。

そのため、とりんファームでは、これまで廃棄されていた身近な未利用食材を発酵して飼料に活用するとともに、近隣のしいたけ栽培施設から出る唐腐皮を鶏小屋の発酵床に利用するなど安心安全な食の提供にこだわり続けています。また、手作りの鶏舎で早馴らすことで健康な鶏を育て、将来的には、養鶏や加工品開発などに取組む幅を広げていきたいと石崎さんの視点はまだまだ続きます。



※一部のみの掲載

(株)紀伊民報 喜田 義人 (1期生)

# 「産学官金」 + 「言」

## 地域への発信力が大きい地方紙との連携



伊 民 報 2018年(平成30年)2月1日 木曜日 第22654号 日刊

### 空き店舗を再生

## 田辺駅前でパン店

### 浅賀さん「地域愛育む店に」

田辺市の田辺駅前商店街(西条商店街)再生して2月1日、「軽きたんパン」が、1店舗ある。店主は市入材産職協会の浅賀さん。地域の活性化を目的としたパンや米菓が売られている。浅賀さんは「地域活性化の第一歩は、空き店舗の再生だ」と話す。浅賀さんは、田辺市に生まれ、田辺市で育ち、田辺市で働く。浅賀さんは、田辺市に生まれ、田辺市で育ち、田辺市で働く。浅賀さんは、田辺市に生まれ、田辺市で育ち、田辺市で働く。

「焼きたてばん b'oh!」の新焼問店準備を進める店主の浅賀由貴乃さん(田辺市)で

### 開園祝って式典

## 2月3日から田辺梅林

田辺市立梅林の開園式典が、2月3日(日)に田辺市立梅林で行われた。式典には、市長、市議員、関係者、市民ら約100人が参加した。梅林は、田辺市立梅林で、2月3日から開園する。梅林は、田辺市立梅林で、2月3日から開園する。

紀 伊 民 報 2018年(平成30年)3月30日

### 酒問屋が日本酒開発

## 「交わり」から地域活性化

### 4月1日発売

田辺市高塚の酒問屋「福徳酒造」が、日本酒「交わり」を開発した。この酒は、田辺市産の米と、田辺市産の酒粕をブレンドして醸造された。この酒は、田辺市産の米と、田辺市産の酒粕をブレンドして醸造された。この酒は、田辺市産の米と、田辺市産の酒粕をブレンドして醸造された。

酒問屋の増産店が開発した日本酒「酒の交わり」

紀 伊 民 報 2018年(平成30年)6月3日 日曜日 第22758号 日刊

### 虫食い材のテーブル

## 田辺 市長室に第1号

### 「ありのまま」で存在感

田辺市長室に、虫食い材のテーブルが設置された。このテーブルは、田辺市産の木材を再利用して作られた。このテーブルは、田辺市産の木材を再利用して作られた。このテーブルは、田辺市産の木材を再利用して作られた。

### 「クジラの歯みがき」公開

## 10日まで 太地の博物館

太地の博物館で、「クジラの歯みがき」の公開が行われた。この歯みがきは、クジラの歯を再利用して作られた。この歯みがきは、クジラの歯を再利用して作られた。この歯みがきは、クジラの歯を再利用して作られた。

**塾生それぞれが新たな一歩を踏み出した**

**もし、10年継続できれば…**

**年10名×10年×50%=50のプロジェクト！**

**大きな一つのプロジェクトよりも**

**地域に根差したスモールビジネスを数多く創出**

# 神島高校 × たなべ未来創造塾修了生

たなべ未来創造塾修了生が  
木の国わかやまプロジェクトに協力



1期生  
榎本将明 (有)榎本家具店



2期生  
石山登啓 (株)高垣工務店



2期生  
中川雅也 (株)中川

# 第6回 高校生ビジネスプラングランプリ

## 最終審査会 & 表彰式

第6回  
高校生  
ビジネスプラン  
グランプリ

日時 2019年1月13日(日) 13:00~17:30 (開場 12:15)

場所 東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール  
東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学本郷キャンパス内

創造力、無限大

4,359件のエントリー ⇒ **ベスト20入り!**

# 大学生 × たなべ未来創造塾修了生



# 富山大 × たなべ未来創造塾 × 魚津三太郎塾 × 南砺市 × とやま呉西圏域共創ビジネス研究所



- 富山大COC+地域志向科目「富山の地域づくり」
- 富山大学芸術文化学部「地域再生論」
- 魚津三太郎塾
- とやま呉西圏域共創ビジネス研究所
- 南砺市みんなの住民自治創生セミナー
- イノベーションネットアワード受賞事例にもとづく地域イノベーション手法研究会in新潟



首都圏関係人口連続講座

# たなコトアカデミー × たなべ未来創造塾



地域で“輝く”人材を多く輩出することで…

たなべ  
未来創造塾

# 関わりたいと思う人が増え、 人がつながり、点から線へ、そして面へ



# 本日、お伝えしたいこと

## 1. 大学と市との連携による取り組み紹介

- ①地域発イノベーションの創出  
(第二創業支援・CSV⇒持続可能な地域づくりへ)
- ②地域を担う人材を発掘
- ③修了生から生まれたローカルイノベーション

## 2. まとめ（他地域に展開する際の課題）

## 3. 持続可能な取組に向けて（今後の施策の方向性）

## まとめ（他地域に展開する際の課題）

- CSRからCSVへ ⇒ 動き出すシステムづくり、価値連鎖、共通価値  
(ボランティアだけでは持続しない、地域課題の解決とビジネスの両立)
- 自治体内に**専門部署**を設置（トップダウン・しがらみのなさ）
- 実践的な**ノウハウ**を持つ**大学**との連携（社会情勢・国の動向・事例…）
- 自治体職員は、**自ら考え、動かし、寄り添う**（コンサルタントへの丸投げ×）
- **K P I** 設定 ⇒ 学ぶだけでなく、50%以上動かす
- 意欲的で行動力のある**次の地域のリーダー**をいかに集められるか  
(30～40歳代、二代目…) ⇒ 50名候補者リストアップ
- 段階的に学ぶ実践的なカリキュラム  
(**コンセプト**を創る、収支計画はその後金融機関とブラッシュアップ)
- **地域の中で“輝く”人材**を創る（関わりたいという人が増える）
- まずは**小さく早くスタート**させる
- **金融機関**との連携（金融機関が塾生紹介、目利き、融資に直結）
- 「言」との連携（**地方紙の発信力**は地方では最強）

# 本日、お伝えしたいこと

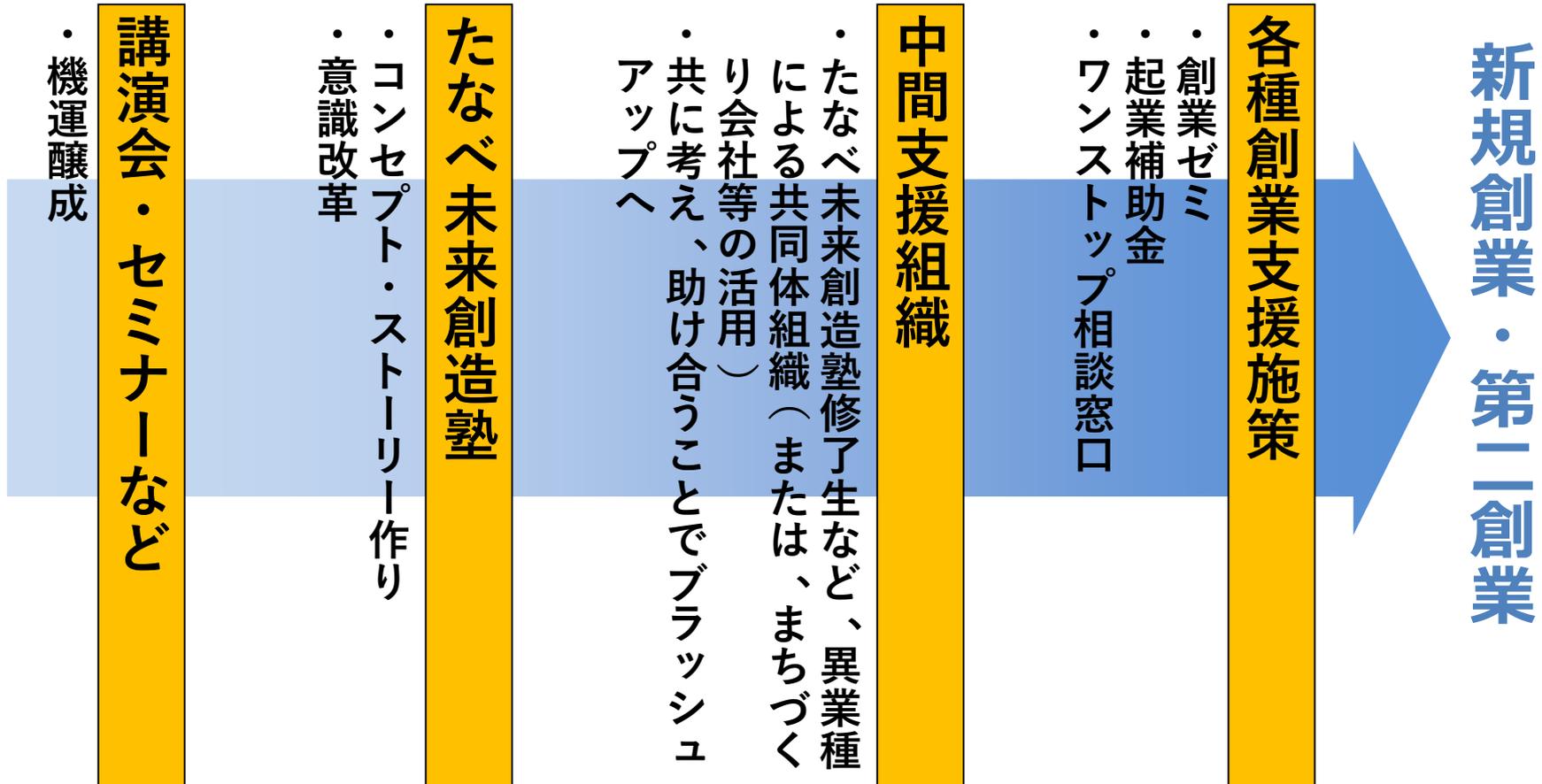
## 1. 大学と市との連携による取り組み紹介

- ①地域発イノベーションの創出  
(第二創業支援・CSV⇒持続可能な地域づくりへ)
- ②地域を担う人材を発掘
- ③修了生から生まれたローカルイノベーション

## 2. まとめ（他地域に展開する際の課題）

## 3. 持続可能な取組に向けて（今後の施策の方向性）

# 中間支援組織の必要性 (地域のシンクタンク機能)



## <課題>

- ・ コンサルタント、コーディネートができる人材の育成
- ・ 活動を継続させていくために、収益をどう確保するか

# 中間支援組織を作ること

# 人材育成 + 関係人口による次なる政策づくりへ...

ソフト⇒ハード（課題解決PPP・地域再生の核となる拠点...） + ソフト

- ①活動主体：
- ②コーディネート等を行う主体：
- ③活動空間（拠点的な施設）：
- ④活動を支える交通ネットワーク：イラストに示す

## 人口減少が引き起こす都市部 （地方都市が抱える地域課題解決）



研究成果・技術の活用

インキュベーションセンター



国内外の研究者等

研究者

大学・研究機関

ベンチャー企業  
研究成果の事業化 など

まちづくり会社  
域外研究者等のための滞在型宿泊施設、子育て支援施設等整備

地元企業

産業支援センター  
伝統工芸館 など



## 里山・山間部の課題解決 （地域資源を守り・育み×活用）



観光資源の活用



地域交流施設

域外人材

旅行商品化、プロモーション など

自治体、ミゼクなど

地域住民

農家

観光事業者の雇傭、観光商品開発（体験）等



観光と農産物等との連携

品等の活用

品等の活用

品等の活用

品等の活用

品等の活用

全国会員

商品開発モニター など

農家

販売商品の原材料供給 など

域外専門家

農産品の生産性向上の技術支援 など

農家

農産品の生産性向上の技術支援 など

農家

農産品の生産性向上の技術支援 など

農家

農産品の生産性向上の技術支援 など

# 自分たちが住む地域は 自分たちで変えよう！

